

出張報告

「一宮調査」

2015年度は、文化庁「地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業」に、國學院大學博物館が中心となった「東京・渋谷から日本の文化を国際発信するミュージアム連携事業」が採択された。

前年の2014年度には、文化庁「地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業」に採択された「東京・渋谷から日本の文化を発信するミュージアム連携事業」の一環として、「資料アーカイブによる教育・映像コンテンツ作成」に関わる画像・コンテンツ収集調査を、「二十二社」を対象として行った。

よって、その目的意識を継承し、事業の柱の一つである「博物館における多言語サービスの充実（多言語充実事業）」に関わる画像・映像収集のために、2015年度は全国の「一宮」を中心的な対象として選定し、研究所スタッフが中心となって出張・調査を実施した。

以下では、その出張・調査の目的と方法、調査地ごとの概要と成果について報告する。

(1) 目的と方法

本出張・調査の目的は、國學院大學博物館展示資料に関連する神社の有形文化財や祭礼等の無形文化財についてオリジナルの画像・映像コンテンツ素材を収集・整理してウェブ上での公開による内容の充実をはかるとともに、有名神社の多言語化や情報発信の状況について把握することにある。

今年度はその主たる対象を、全国に数多くの神社が鎮座するなかより、中世から近世にいたるまで地域の総鎮守として機能した「一宮」とすることにした。2015年6月に石川県、

12月に長崎県壱岐市、2016年3月に三重県・和歌山県にてそれぞれ出張調査を実施した。

調査方法は、調査員が現地を実際に訪れ、デジタルカメラ・ビデオを用いてオリジナルの画像・映像コンテンツの収集に努めた。

(2) 調査地と成果

◆気多大社 白山比咩神社

実施日：2015年6月21～22日

調査員：井上順孝、塚田穂高、今井信治、藤井麻央（敬称略）

6月21日は、気多大社（石川県羽咋市）にて調査を行った。同社は、能登国一宮である。主祭神は大己貴命である。

同社境内では、鳥居・石柱・由緒・社号額・天皇陛下行幸記念碑・参道・古札所・神棚・社務所・養老大天國像奉安殿・折口父子歌碑・お守り類・撰社菅原神社・合格橋・絵馬・提灯・撰社楊田神社・撰社太玉神社・燈籠・狛犬・おみくじ類・手水舎・撰社奥津島神社・神門（重要文化財）・茅の輪・拝殿（重要文化財）・本殿・撰社白山神社本殿（重要文化財）・撰社若宮神社本殿（重要文化財）・昭和天皇御製碑・守札所・看板類などの撮影を実施した。

社務所では、由緒やパンフレット類が、日本語・中国語・タイ語・フランス語・ドイツ語・韓国語・台湾語・英語に翻訳されているのを確認し、一部を入手した。

6月22日は、白山比咩神社（石川県白山市）にて調査を行った。同社は加賀国一宮であり、全国三千余社とされる白山神社の本宮・白山信仰の中心である。祭神は、白山比咩大神（菊理媛尊）・伊弉諾尊・伊弉冉尊である。



気多大社 由緒・パンフレット多言語化の状況



天手長男神社 鳥居



白山比咩神社 参道

同社境内では、鳥居・社号票・参道・石燈籠・由緒板・石橋・御神木・手水舎・狛犬・摂社荒御前神社・神門・絵馬・神馬舎・外拝殿・古神札納所・授与所・社務所・奉納額・盤持石・白山奥宮遥拝所・参集殿・遊神殿・禊場・末社住吉社・注連縄・芭蕉句碑・車祓所・宝物館・霊水・参拝客駐車場・觸穢の所・河濯尊大権現・旧加賀一宮駅・石碑・宣伝掲示・看板類などの撮影を実施した。

書籍類・パンフレット類の入手とともに、宝物館にて所蔵資料の展示状況を把握した。

◆天手長男神社

実施日：2015年12月19～21日

調査員：井上順孝、今井信治、吉田尚文（敬称略）

12月19～21日、長崎県壱岐市にて調査を行った。壱岐国一宮は、天手長男神社とされることが多い。ただし、同市内の興神社あるいは住吉神社ではないかとの説もある。

よって、本出張では天手長男神社のほか、市内の複数の有力神社を調査することとした。同時に、壱岐市立一支国博物館にて展示内容の翻訳状況や冊子刊行物などを調査した。

12月20日には、天手長男神社にて調査と撮影を実施した。神職不在、社務所はなく、パンフレットなども置かれていない。境内には壱岐市内の観光名所に置かれる音声案内板が設置されていた。由緒などの紹介は参道入り口に置かれ、日本語のみであった。

その他、調査日程内において、19日は壱岐市立一支国博物館にて展示内容の翻訳状況や冊子刊行物などを調査した。

20日には、前述の天手長男神社の他に、興神社・月讀神社・國片主神社・住吉神社・賽神社にて、21日には、聖母宮・新城神社・中津神社・箱崎八幡神社・壱岐神社・高御祖神社・安国寺・白沙八幡神社にて、調査と撮影を実施した。

◆椿大神社 日前神宮・國懸神宮 伊太祁曾神社

実施日：2016年3月4～5日

調査員：井上順孝、斎藤公太、吉田尚文（敬称略）

3月4日は、椿大神社（三重県鈴鹿市）の調査を行った。伊勢国一宮をめぐる議論が続いており、都波岐奈加等神社や多度大社を一宮とする説もあるが、今回は長年一宮として有力視されてきた椿大神社を調査した。



樁大神社 鳥居・参道

同社は式内社であり、主祭神は猿田彦大神。相殿に瓊々杵尊と栲幡千千姫命を祀る。入口付近にある由緒書や境内各所の案内板は日本語のみであった。他方、レストランや土産物店の入った「樁会館」を併設し、樁岸神社では「縁結び」や「芸能上達」の御利益を打ち出すなど情報発信に工夫が見られた。

3月5日は、和歌山市で伊太祁曽神社と日前神宮・國懸神宮の調査を行った。

伊太祁曽神社の主祭神は五十猛命とその妹神である大屋津姫命、都麻津姫命である。紀

伊国一宮の論社の一つであり、社伝によれば後述の日前神宮・國懸神宮に鎮座地を譲って現在の場所に遷座したという。境内の由緒書や案内板は日本語のみであった。ただし、境内には外国人観光客や外国語の絵馬も見られた。

日前神宮と國懸神宮は一つの境内に鎮座し、二社一組で紀伊国一宮とされる。前述の通り紀伊国一宮については諸説あるが、日前・國懸神宮を一宮とするのが一般的である。日前神宮の主祭神は日前大神であり、國懸神宮の主祭神は國懸大神である。境内の由緒書や案内板は日本語のみであった。

以上の調査により、多くの画像・映像データが収集された。こうしたオリジナルデータは、現在の全国の一宮の様子を知るうえで貴重な資料と言えるだろう。収集データは現在、博物館において、館内展示やデジタル・ミュージアム上でのデータの活用・公開を目指した写真の選定・再整理作業が進められている。

(塚田穂高)